

1 第3次千葉県食育推進計画の目標達成状況

	委員意見	委員	回答	担当課
1	目標未達成が目立つがこの調査は前回と同じ人が答えているのか。リーフレットやチラシの作成は手に取る人も限られる。県民だよりも新聞を取っていないと伝わらない。	今井委員	県民の食育に関する意識を把握し現状分析等の参考にするため世論調査を利用しており、回答者は毎回違う人が答えています。啓発、広報の手法については、今後検討してまいります。	安全農業推進課
2	どの目標も策定時の目標値に達していない、ということは目標値の設定が高すぎたのではないか。	小林委員 小松委員 佐藤(弘)委員、	同様の御意見が多数ありましたので、次回の県民協議会で検討してまいります。	安全農業推進課
3	指標の文言が、具体的な行動(朝食欠食等)と関心(・・・を思う、心がけている)が入り混じっているが、関心面は文言をかえると数値があがるのではないか。	小林委員	指標の内容を含め、わかりやすい文言で記載する等の検討してまいります。	安全農業推進課
4	市町村計画を作成し、実施している市町村数が全市町村にならないのは連携ができていないのか、まず全県で取り組むことが最優先	小松委員	未策定や期限切れ、あるいは当該年度に計画期間が終了する市町村については、引き続き、進捗確認や情報提供等を行い、県関係部署と連携し、支援してまいります。	安全農業推進課
5	朝食欠食は長年の課題であり、学校などと協力して取り組まなければならないと思う。	佐藤(弘)委員	朝食をはじめ3食をきちんと食べることは、子供たちが正しい生活習慣を身につける上で、きわめて大切であると認識しており、県教育委員会では、食に関する学習ノート「いきいきちばっ子」を活用し、学年に応じたきめ細かな指導を実施しています。 保護者啓発資料として、「簡単朝食レシピ」を作成し、令和元年9月に市町村教育委員会に各家庭への配付を依頼しました。	学校安全保健課

	委員意見	委員	回答	担当課
			<p>※『食育』ってどんないいことがあるの？～エビデンス(根拠)に基づいて分かったこと～統合版」(農林水産省)令和元年10月</p> <p>若者において比較したデータはありませんが、H22年度に実施した学童期からの生活習慣病予防事業の結果からは、児童の朝食習慣と児童の体型による違いは見られていません。(※BMIによる判定基準ではない。)</p>	
11	7の朝食欠食では6.8ポイント減を改善傾向としているが、11の栄養成分表示の成人女性7.5ポイント減を横ばいとしている。栄養成分表示を活用するなどの食品選択力は今後必要になる能力であると考えられるため、横ばいではなく低下傾向とした上で対策に取り組んではどうか。	星野委員	御指摘のとおり、栄養成分表示の7.5%減については「減少傾向」と評価した上で、更なる改善に向けて対策を進めてまいります。	健康づくり支援課、
12	指標の「郷土料理」、「伝統的な料理」(行事食含む)がわかりにくい、知らない人が多い。	松田委員 小林委員	食育啓発資料、動画や学校給食への導入等により、伝える工夫を検討してまいります。	安全農業推進課
13	指標の「主食・主菜・副菜」という言葉がわかりにくい。	松田委員	主食・主菜・副菜の言葉の意味、食品の違い、それぞれの役割を分かりやすく伝える工夫を検討してまいります。	健康づくり支援課
14	指標「ゆっくりよく噛んで食べる県民の割合」を「ゆっくりよく噛んで味わう県民の割合にしたらどうか。	松田委員	国のデータと比較可能とするため、「ゆっくりよく噛んで食べる県民の割合」を指標としたいと思います。	健康づくり支援課
15	小中学生には必ず基本的な食育体系を学ぶ機会を提供し、バランスの良い食生活と朝食欠食をしない習慣を身に付けてもらいたい。	眞鍋委員	次期計画本文の記載において検討してまいります。	学校安全保健課

	委員意見	委員	回答	担当課
16	地域の農林水産業や伝統的料理や作法等を知る機会を地域社会だけでなく、学校・県とも連動した活動が目指せばよいと考える。	眞鍋委員	<p>県教育委員会では、毎年11月に「千産千消デー」を設け、学校給食に郷土料理を取り入れて、地域の食文化等に関する指導の充実を図っております。今後も、栄養教諭及び学校栄養職員等を対象とした研修会において、郷土料理を生かした献立の情報交換を行うなどして、季節感のあるおいしい給食を提供し、和食のすばらしさについて、子供たちがより一層理解を深めるよう努めてまいります。</p> <p>食育ボランティアやサポート企業等と連携を図り、円滑に農業体験や料理教室等ができるよう働きかけます。</p>	学校安全保健課 安全農業推進課
17	コロナ禍における変化（学校行事の中止、授業のオンライン化の推進）をむしろ機会ととらえ、新たな食育の学びのやり方を進めていければよい。	眞鍋委員	新しい視点については、計画本文の記載において検討してまいります。	安全農業推進課
18	指標項目「主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている県民の割合」の課題の欄に、「主菜と副菜に区分される食品の違いや、それぞれの役割を伝えることが課題である」を加筆してはどうか。	渡邊委員	主食・主菜・副菜の食品の違い、それぞれの役割を伝えていくことは重要であり、課題として認識した上で、今後の取組を検討してまいります。	健康づくり支援課

【 意見等 】

- ・小中学生の「朝食欠食」が増加傾向にあり、課題意識を高めていき、さらに課題解決の方法を構築し、取り組みの充実を図っていくことが求められる。（庄司委員）
- ・食育を通じて健康で規則正しい生活ができ、治療医学から予防医学への方向性を打ち出せたらいいと思う。家族、地域でいかに豊かな食や地産地消に取り組めるかが重要。（知久委員）
- ・ライフスタイル・家庭生活の多様化が見られ、様々な種類の食材が多様な形で加工・提供されるようになった今、食品の選び方等も含めた判断力をつけることが必要とされているが、自身でその力を得られない者も一定数出てきてしまうので、選択力・判断力が身につけていない、乏しい者でも選択しやすくなるような県独自の目印を作成できないか。（星野委員）
- ・県民全体が食育へ関心を持つことができる包括的な、世代別の普及・啓蒙について継続することが重要。（眞鍋委員）
- ・欠食については、ライフスタイルの変化の現れ。JAグループでは米消費拡大を目的とした「3飯運動」を展開している。（山下委員）